

製品名: Mlx ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13965**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	MLX
別名	MLX; BHLHD13; TCFL4; Max-like protein X; Class D basic helix-loop-helix protein 13; bHLHd13; Max-like bHLHZip protein; Protein BigMax; Transcription factor-like protein 4
遺伝子 ID	6945.0
SwissProt ID	Q9UH92
免疫原	抗血清はヒト Mlx 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

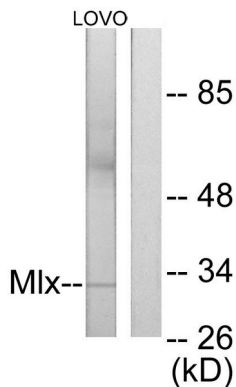
この遺伝子産物は、塩基性ヘリックス-ループ-ヘリックスロイシンジッパー (bHLH-Zip) 転写因子ファミリーに属します。これらの

因子は Mad タンパク質とヘテロ二量体を形成し、増殖、決定、分化に役割を果たします。この遺伝子産物は、Madファミリーの転写抑制因子のサブセット、すなわち Mad1 および Mad4 と限定的に関連することにより、Madファミリーの機能を多様化させる働きがあると考えられます。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能：転写調節因子。MAD1、MAD4、MNT、WBSCR14、MLXIP と配列特異的な DNA 結合タンパク質複合体を形成し、コア配列 5'-CACGTG-3' を認識します。TCFL4-MAD1、TCFL4-MAD4、TCFL4-WBSCR14 複合体は転写抑制因子です。解糖系標的遺伝子の転写活性化に関与する。グルコース応答性遺伝子制御に関与する。類似性：1つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。細胞内局在：主に細胞質に存在。細胞内局在：主に核に存在。サブユニット：効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。MAD1、MAD4、MNT、WBSCR14、MLXIP とヘテロ二量体として DNA に結合する。また、ホモ二量体として DNA に結合することもできる。組織特異性：脾臓、胸腺、前立腺、卵巣、腸管、結腸、末梢血白血球、心臓、肝臓、骨格筋、腎臓など、試験したすべての組織で発現する。精巣、脳、胎盤、肺では発現レベルが低い。

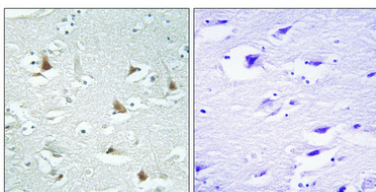
研究分野

幹細胞経路; タンパク質アセチル化

画像データ



Mlx 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。